

第5学年1組 社会科学学習指導案

平成30年11月21日(水) 第3限 5年1組教室 指導者 鈴木 彩乃

1 単元 自動車をつくる工業(17時間完了)

2 目標

- (1) 自動車工業の現状やそれに関わる人々の工夫や努力を、生活との関連を踏まえて理解したり情報を適切に活用して調べまとめたりすることができる。(知識及び技能)
- (2) 製造工程、工場相互の協力関係、消費者や社会の需要に対応する製品を作る技術等に着眼して自動車工業に関わる人々の工夫や努力を捉え、考えたことや選択・判断したことを説明したり、根拠を基に議論したりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 自動車工場を積極的に見学したり、消費者や社会の需要と自動車工業との関係について主体的に調べたりして課題を意欲的に追究し、学んだことを社会生活に生かそうとする。(学びに向かう力・人間性等)

3 構想

(1) 子供たちを見つめる

5年生の社会科は日本を支える農業・水産業・工業やこれからの社会科について詳しく学習する時期である。どの単元でもグラフや表を読み取ることが多く、それらが苦手な子供にとっては、難しい内容である。そこで、国語科「資料を生かして考えよう」の単元で、資料の読み取り方について詳しく学習した。国語科で学んだ資料読み取りのスキルを社会科でも生かし、グラフや表を読み取る活動を多く取り入れた。それによって、資料活用スキルが向上し、一つの資料から多くの事実が分かる楽しさを見出すことができるようになった子供が増えてきた。

前単元の「水産業のさかんな地域」のまとめでは、「これから日本の水産業はどうしていくべきか」というテーマで議論をした。2学期から導入されたiPadで資料を集め、ミラーリング機能を活用しながら、クラスの4分の1の子供が資料を根拠に発表することができた。しかし、それは単にプレゼンテーション形式の発表に留まることが多く、相互に意見を関わらせ、議論を深める段階には至っていない。そのため、考えの根拠となり得る資料をあらかじめ用意したり、切実感をもって議論できる課題を提示したりすることで、形式的な発表ではなく、資料を根拠に気付きを多面的・多角的に出し合い、対話によって問題解決していく議論ができるのではないかと考えた。この単元を通して、自分たちの時代を自分たちで創造していこうとする積極的な子供を育てたい。

(2) 教材を選ぶ

本単元は、自動車生産に携わる人々の工夫や努力を理解し、その不断の努力のおかげで、私たちの生活が豊かになっていることを考察する学習である。導入で、「空飛ぶ自動車」の開発が進んでいるという新聞記事を提示し、子供たちの興味関心を引き出す。それから、個人の調べ学習で見つけた疑問を解決するため、「トヨタ自動車元町工場」や「アイシンAW岡崎東工場」へ見学に出かける。子供たちは、工場の先進技術を目の当たりにし、自動車工業に携わる人々の工夫や努力を肌で感じるであろう。見学を通して、安全に留意して効率よく自動車を生産していることを理解した上で、もう一度、ガソリン以外の燃料を使う自動車や自動運転機能を搭載した自動車等について個々に調べ、話し合いで考えを練り合う。このように、個人で調べたり、グループやクラスで話し合ったりしながら、今の自動車工業が、環境や社会問題、人々の生活に対応しながら発展していることを多面的・多角的に考察させたい。そして、単元の終盤には、「ソサエティ 5.0」をイメージして、未来に

目を向けこれからの自動車工業で力を入れるべきことは何かを、これまでの学びを基に自分事として考えさせたい。

(3) 学びを深める

新学習指導要領によると、社会科において身に付けるべき能力として「社会的事象について、情報を適切に活用し、調べまとめる力」「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力」「思考・判断したことを適切に表現する力」「社会に見られる課題を把握し、解決に向けて構想する力」「考察したことや構想したことを説明、議論する力」等があげられる。そこで、本単元で目指す学びが深まった子供の姿を以下のように捉え、段階的に指導したいと考えた。

- ・自動車工業に関連する情報を適切に活用し、調べまとめることができる子供
- ・自動車工業やそれを取り巻く社会問題について、多面的・多角的に考えることができる子供
- ・社会問題の解決に向けて、社会との関わり方を自分なりに選択・判断できる子供
- ・学んできたことや調べたことを根拠に意見を出し合い、考えを深めることができる子供

本時は、「これから日本の自動車工業で力を入れるべきこと」というテーマで議論する。発言が机上の空論に終わらないように根拠となる資料を事前に準備させて本時に臨ませたい。「環境にやさしい自動車づくり」「命を守る安全な自動車づくり」等、それぞれの考えの根拠を思考ツール「クラゲチャート」を用いて多面的・多角的に考えさせたい。そして、終盤で「あなたが、一番力を入れたいことは何か」と切り返すことにより、子供たちに選択・判断させる場面を設定し、自分事としてのこだわりや切実感をもって考察させたい。

4 単元計画 (17時間完了 本時 16/17)

学習課題	学習内容	時数
自動車について知っていることを出し合ったり、資料を読み取ったりして、前半の学習課題を作ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・空飛ぶ自動車の開発が豊田市で進んでいるという新聞記事を見て、自動車に対する興味関心をもつ。 ・全国の自動車工場一覧表から、部品工場や組み立て工場の数が少ないことに気付く。 ・同じ車種でありながら、違うグレードの自動車の写真を見て、消費者の要望に応じて自動車が生産されていることに気付く。 ・輸出入に関する資料から、日本で生産している自動車の約半分が世界に輸出されていることに気付く。 ・「全国に数か所しかない工場で、たくさんの種類の自動車をどのように作り、世界中で売れているのはなぜだろうか。」という課題Iを立てる。 	2
意見を集約し、学習に対する予想を立てよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生活経験や前時までの話の内容から、予想を立て、「つくり方の工夫」と「働く人の努力(願い)」に観点を絞る。 	1
学習課題を解決するため、工場見学へ行き、まとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくり方の工夫」「働く人の努力」の2観点で工場見学をし、生産者目線の自動車工業について理解を深める。 ・学習課題が解決できるように、見学で学んだことをまとめる。 	7 (見学6)

<p>学習課題を解決するために、学級で話し合おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見学で学んだことをクラスで共有する。 ・少ない工場でたくさんの種類の自動車をどのように作り、また、世界中で売れているのはなぜか考える。 ・生産者の工夫や努力で、効率よく、無駄なく、正確に、環境によく、安全な車をつくることができていることに気付く。 	1
<p>家族や教員が乗っている自動車の調査をし、新しい課題を見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料や自動運転機能に関するインタビュー調査を行う。 ・調査報告をすることで、ガソリン車が多いことと同時にガソリンなどの化石燃料が世界からなくなりそうなことや、ハイブリッドカーが少しずつ増えていることに気付く。 ・自動運転機能がついた車が登場し、人が運転しなくてもよい時代が来るかもしれないことに気付く。 ・「これから自動車を取り巻く世界はどのように変わっていくのだろうか」という課題Ⅱに対する予想を立てる。 	2
<p>課題Ⅱについて根拠を基に予想し、みんなで話し合おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもって、意見が述べられるように、クラゲチャートを用いて、調べたことを記録するようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>《地球にやさしい自動車づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ★全員で学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリットカーの種類 ・化石燃料 ★個人で学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・CO₂の排出量の内訳 ・地球温暖化 <p>《人にやさしい自動車づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ★全員で学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・自動車工場で働く人の割合 ★個人で学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の事故増加 ・福祉車両 </div>	2
<p>これから日本の自動車工業で力を入れるべきことは何か考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや調べたことを基に話し合いをする。 ・自分の意見を基に友達の意見を比較しながら聞き、これからの自動車工業で力を入れていくべきことを多面的・多角的に考察する。 	1 (本時)
<p>「ソサエティ 5.0」における夢の自動車を描こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや調べたことを基に近未来の自動車を考える。 ・人や環境にやさしい近未来の自動車を想像して描く。 	1

5 本時の学習指導

(1) 目標

- ①これからの日本の自動車づくりについて、資料を基に自分の意見を述べたり、友達の意見と比べ、考えを再構築したりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ②今後の日本の自動車工業の在り方を主体的に考え、切実感をもって話し合おうとする。(学びに向かう力・人間性等)

(2) 準備

児童…iPad、資料、資料集、地図帳、ノート
 教師…Apple TV、iPad、掲示用資料

(3) 主体的・対話的で深い学びにせまる手だて

- ・グループ対話では多様な意見を出し合えるように「一番」を伏せて課題を提示し、終盤では「一番」にこだわらせることで、子供たちに選択・判断をせまり自分の考えを再構築させる。

(4) 展開

時間	児童の活動	教師の活動
つ か む (5)	1 「ソサエティ 5.0」の社会を想像する。 ・自動運転のバスができそうだな。 ・宅配便は、ドローンがやってくれるようになるのかな。 2 本時の課題をつかむ。	・政府広報オンライン「ソサエティ 5.0」の映像をTVに投影して近未来の世界を想像させ、本時の課題につなげる。 ・多様な考えをグループ内で出し合えるように「一番」という言葉を抜いた学習課題を板書する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> これから日本の自動車工業で（一番）力を入れるべきことは何かを考えよう。 </div>		
さ ぐ る (7)	3 学習課題に対する考えをグループで出し合う。 ・排気ガスを出さない、環境に優しい自動車づくりに力を入れるべきである。 ・空飛ぶ車など、新しい自動車づくりに力を入れるべきである。 ・人の命を守る安全な自動車づくりに力を入れるべきである。 4 学習課題について、根拠を基にクラスで議論する。 ・ガソリン以外で走る自動車づくりに力を入れるべきだ。石油がなくなりそうだし、水素で動く自動車をトヨタ会館	・班長が司会をして、グループで多様な考えを出し合うことにより、自信をもってクラス対話で発言できるようにする。 ・語尾を「～自動車づくりに力を入れるべきである。」という話型に統一し、発言しやすくまた、自他の考えを比較しやすくする。 ・「ここでは、理由や根拠を伏せて発表しましょう。」と指示することで、「もっと友達の話を聞きたい。」という意欲を喚起する。 ・写真やグラフ等の資料、見学や調査活動で得た情報等の根拠を明らかにしながら発言するよう指示する。 ・児童の資料に応じて、iPad やTV等、適切なツールを用いて共有化を図る。

<p>ふかめる (25)</p>	<p>で見たよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動で走れる自動車づくりに力を入れた方がいいと思う。理由は、高齢者の事故が増えてきているし、日本の人口の割合を見ても、高齢者が多いから。 ・排気ガスの出ない電気で走る自動車づくりに力を入れるべきだ。なぜなら、大気汚染を減らすことで、地球温暖化を防ぐことにつながるからだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠が同じ意見が出てきたら「クラゲチャート」にチェックしながら聞くよう助言し、多角的・多面的な意見があることを実感できるようにする。 ・発言が止まったときは、「新しい視点はありますか。」と切り返す。 ・子供の思考を整理して可視化するため、出された意見を「環境にやさしい」と「人にやさしい」に分けて板書する。 ・意見が出そろった時点で、「<u>あなたがこれからの自動車工業で、一番力を入れたいことは何か。</u>」と問い返し、対話から再考し、<u>主体的に選択・判断する場面を設定する。</u> ・「一番」にこだわり、自分の考えを、話し合いによって深め、再構築できた子供を称賛する。 ・話し合いを通じて「なるほど」と共感できたこと、新たに考えたことを「授業日記」に書くよう指示する。 ・人とロボットと地球が共存していくことが大切であるといったニュアンスのことを書いた子供を2名意図的指名し、称賛する。
<p>ふりかえる (8)</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは、環境にやさしい自動車づくりが大切だと思っていたけれど、〇〇さんの意見を聞いて、高齢者でも安心して運転できるように、自動運転の開発に力を入れるべきだと思いました。 ・今後、ますます機械化が進んだら、工場で働く人が必要なくなり、失業者が増える。人とロボットが協力し合って、自動車づくりをしていくことが大切なんじゃないかな。 </div>	

(5) 評価

①これからの日本の自動車工業において何に力を入れるべきか、資料を示しながら分かりやすく伝えたり、対話から再考し、自分の「一番」は何かを主体的に考えたりすることができたか。

(活動3・4の発言や様子、活動5の授業日記の記述より)

②学んだことや調べたことを基にしたり、友達の見解に耳を傾けたりして真剣に考え、切実感をもって話し合おうとしたか。

(活動3・4の話し合いの様子、活動5の授業日記の記述より)